肢体不自由教育における
特別支援学校のセンター的機能強化をめざした
研修プログラム（試案）の策定

令和６年（2024 年）３月

山口県立周南総合支援学校

肢体不自由教育における特別支援学校のセンター的機能強化をめざした
研修プログラム（試案）の策定

1　策定の目的

インクルーシブ教育システム構築の流れの中で、近年、小・中学校の肢体不自由特別支援学級や通常の学級に在籍する肢体不自由のある児童生徒が増加していることを踏まえ、地域の学校の体制整備や専門性向上に資するため、特別支援学校のセンター的機能を強化し、地域の学校へ肢体不自由教育の充実のための方策を提供することを目的とする。

2　各学校の研修ニーズ（域内の学校への聞き取りより）

（1）肢体不自由特別支援学級を設置する小・中学校

○　学校全体で組織的に取り組み、安全な教育環境を構築するための体制整備について知りたい。
○　肢体不自由のある児童生徒に対する基本的な介助方法を知りたい。
○　肢体不自由特別支援学級の教育課程編成の考え方について知りたい。
○　肢体不自由のある児童生徒の実態把握の方法を知りたい。
○　肢体不自由のある児童生徒に有効な教材・教具を知りたい。

（2）特別支援学校

○　肢体不自由のある児童生徒の自立活動の指導をより充実させたい。
○　小・中学校等への的確な助言ができるように、事例検討を多く行い、経験を積みたい。
○　肢体不自由のある児童生徒への効果的な ICT 活用について知りたい。

■　肢体不自由特別支援学級を設置する小・中学校は、安全を担保するための校内体制の整備や、肢体不自由教育に関する基本的な知識・技能の習得が必要と感じている。
■　肢体不自由教育に関するセンター的機能を有する特別支援学校は、小・中学校に的確な助言ができるようになるため、実践の蓄積や専門性の一層の向上が必要と感じている。

3　策定の方向性

○　肢体不自由教育に関する専門性の高い外部人材を効果的に活用しながら、特別支援学校教員の実践力や専門性の一層の向上を図り、センター的機能の強化をめざす。
○　以下の３つのステップを設定し、具体的なプログラムを策定する。

【ステップ１】
・特別支援学校教員に対し、外部人材（大学教授、理学療法士等）による研修を実施 ・特別支援学校教員が研修内容をもとにした実践を蓄積
【ステップ２】
・特別支援学校教員及び小・中学校教員に対し、外部人材による研修を実施 ・一部、特別支援学校教員が小・中学校教員に対し、研修を実施
【ステップ３】
・特別支援学校教員が小・中学校教員に対し、研修を計画的に実施（自走）。

4　研修プログラムの概要

カテゴリー	項目
1　校内体制	（1）　安心・安全な教育環境の構築に向けた校内体制の整備 （2）　個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 （3）　医療的ケア実施体制の整備
2　教育課程	（1）　肢体不自由特別支援学級における教育課程の編成 （2）　自立活動の指導の考え方
3　指導実践	（1）　座位、立位等の指導 （2）　食事介助の方法 （3）　プール活動における指導
4　教材・教具	（1）　肢体不自由教育における教材・教具（補助具を含む）の活用 （2）　肢体不自由教育における ICT 活用

5　研修プログラムの実際

※下記の表中の「ステップ」は、「3　策定の方向性」で示した３つのステップのうち、どこに該当するかを示している。

※下記の表中の「対象」は、①が特別支援学校教員、②が小・中学校の肢体不自由特別支援学級担当教員、③がその他の教員（通常の学級担任等）を示している。

【カテゴリー１　校内体制】

項目	ｽﾃｯﾌﾟ	内容及び方法	対象・講師
（1） 安心・安全な教育環境の構築に向けた校内体制の整備	2	■学校環境及び教室環境の整備の方法 （講義、演習） ・机、椅子等の選定 ・校内及び教室内における動線の確認 ・教室環境の確認　等 ■校内委員会の機能強化 （講義、演習） ・校内での共通理解・情報共有を目的としたケース検討の方法	＜対象＞ ①②③ ＜講師＞ PT、OT、 特支学校教員
（2） 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	3	■個別の教育支援計画の作成と活用 （講義、演習） ・実態把握の方法 ・一貫性のある目標、内容、支援の手立ての設定 ・評価の方法 ・計画を活用した関係機関等との連携 ・効果的な引継ぎの方法　等 ■個別の指導計画の作成と活用 （講義、演習）	＜対象＞ ②③ ＜講師＞ 特支学校教員

		・各教科における指導計画の作成手順 ・自立活動の指導における指導計画の作成手順 ・一貫性のある目標、内容、支援の手立ての設定 ・評価の方法 ・計画を活用した授業改善の方法　等	
（３） 医療的ケア実施体制の整備	1	■校内の実施体制の整備（講義） ・実施マニュアルの策定 ・医療的ケア児支援法をはじめとする関係法令、制度の理解 ・緊急時対応の共通理解及びシミュレーション ・教員と医療的ケア看護職員との連携方法の確認　等 ■校内検討委員会の組織及び運営（講義、演習） ・医療的ケア児のケース検討の方法 ・校外学習の実施等に関する検討手順　等	＜対象＞ ①②③ ＜講師＞ 医師、看護師、特支学校養護教諭　等

【カテゴリー２　教育課程】

項目	ｽﾃｯﾌﾟ	内容及び方法	対象・講師
（１） 肢体不自由特別支援学級における教育課程の編成	3	■肢体不自由特別支援学級における教育課程の考え方（講義） ・学習指導要領に基づいた教育課程の編成 ・特別支援学校学習指導要領を参考にして教育課程を編成する際の手順 ・知的障害を併せ有する児童生徒に対する教育課程編成の手順　等 ■カリキュラム・マネジメントの充実（講義、演習） ・個別の指導計画を活用した教育課程の改善	＜対象＞ ② ＜講師＞ 特支学校教員
（２） 自立活動の指導の考え方	2	■実態把握から具体的な指導内容を導き出すための手順（講義、演習） ・具体的な手順の確認 ・「流れ図」を活用した指導内容の設定　等 ■評価の方法（講義、演習） ・個別の指導計画を活用した評価の方法 ・評価を改善につなげる手順　等	＜対象＞ ①② ＜講師＞ 大学教授、特支学校教員

【カテゴリー３　指導実践】			
項目	ｽﾃｯﾌﾟ	内容及び方法	対象・講師
（１） 座位、立位等の指導	1	■肢体不自由児の生理及び病理（講義） ・肢体不自由の原因となる疾病 ・肢体不自由児の学習上及び生活上の特性 ・身体の変形の理解　等 ■身体を安定させるための指導方法 （講義、演習） ・首を安定させるための指導方法 ・寝返りの指導方法 ・座位の指導方法 ・移動（腹這い、四つ這い等）の指導方法 ・立位の指導方法 ・歩行の指導方法　等	＜対象＞ ①② ＜講師＞ 大学教授、 PT
（２） 食事介助の方法	1	■食事の際の姿勢のとり方（講義、演習） ・座位での食事の際の姿勢 ・介助者のポジショニング　等 ■食事介助の実際（講義、演習） ・食形態の種類 ・スプーンの運び方 ・コップの使い方　等	＜対象＞ ①② ＜講師＞ ST
（３） プール活動における指導	1	■児童生徒の実態に応じた活動内容の設定（講義） ・障害の状態等に応じた活動内容の選定方法 ・個別プログラムの策定手順　等 ■プール内での介助の方法（講義、演習） ・緊張を緩めるための介助方法 ・補助具の使い方　等	＜対象＞ ①② ＜講師＞ PT

【カテゴリー４　教材・教具】			
項目	ｽﾃｯﾌﾟ	内容及び方法	対象・講師
（１） 肢体不自由教育における教材・教具（補助具を含む）の活用	3	■教材・教具の選定（講義、演習） ・肢体不自由教育における教材・教具の種類 ・実態に応じた教材・教具の選定方法 ・教材・教具の自作方法　等 ■補助具の活用（講義、演習） ・補助具の種類 ・効果的な補助具の活用方法　等	＜対象＞ ②③ ＜講師＞ 特支学校教員

（２） 肢体不自由教育における ICT 活用	2	■１人１台端末の活用 ・端末のセッティング方法 ・端末のアクセシビリティ機能の活用方法 ・スイッチ等の補助機器の活用方法　等 ■VOCA の活用 ・コミュニケーション支援の考え方 ・機器の種類 ・機器の具体的な活用方法　等 ■視線入力装置や VR 等の最新技術の活用 ・各機器の具体的な活用方法　等	＜対象＞ ①② ＜講師＞ 大学教授、 特支学校教員